

議長（黒沢義久君） 日程第 1，一般質問を行います。

昨日に引き続き，通告順に発言を許します。

3 番鈴木二郎君の発言を許します。

〔 3 番 鈴木二郎君登壇 〕

3 番（鈴木二郎君） 3 番鈴木二郎でございます。議長にお許しをいただきましたので，通告順に従いまして質問してまいります。

まず第 1 点目，橋の老朽化現状と対策についてお伺いいたします。

国や自治体が管理する道路橋は，傷みが深刻化してから大規模補修を行うより，点検を小まめに実施し損傷が軽微なうちに対策を施せば，60 年でかけかえが必要とされる橋の寿命を 100 年に延ばすことが可能であり，維持管理費も節約できるとされております。

全国の道路橋の状況は，長さ 15 メートル以上の橋は 15 万 4,000 あり，長さ 2 メートル以上で農道と林道にかかる橋を含みますと約 68 万あるとのことでございます。これらの橋の多くは，高度成長期に集中的に整備されたものであり，建設後約 50 年以上になる道路橋の割合は，平成 26 年度までには 50% 近くになると言われております。しかし，全国において国や自治体が管理する道路橋では，長寿命化の前提となる点検，定期点検もされていない橋が半数近くに上り，さらに長寿命化修繕計画を作成した自治体は 30 を超す程度であり，取り組みが不十分なことが総務省の調査で明らかになりました。

2007 年に三重県の国道木曾川大橋で，2008 年には千葉県君津市の市道橋で，橋げたを支持する鋼材の一部が腐食し破断しているのが見つかった報告がございます。幸い人命に係る事故は起きていないが，いつ起きるかわからないのではないのでしょうか。日常身近に利用している主要地方道日立笠間線の山田川にかかる永代橋においても 50 年以上経過し，老朽化が進み橋の中央部がせり上がり，山形状すなわちハの字型となっており，トラック等の大型車が通過時，衝撃も大変大きく，路面も舗装部に穴があいたり，ひずみがあったり，非常に損傷が進んでいるものと思われま。

このように身近に利用している道路橋について，安全の確保，長寿命化並びに維持管理費の縮減を図るためにも早急に対応，対策が必要と考えますが，市道の橋及び県の長寿命化修繕対応補強計画の進捗状況についてお伺いをいたします。

次に，2 つ目といたしまして，人間としての品格・品性形成，モラル等徳育教育についてお伺いをいたします。

昨今，テレビや新聞等，マスコミで頻繁に取り上げられ，大きな社会問題となっており憂慮すべきこととして，知識はあっても人間として生きていく上で大切な礼儀作法，思いやりや誠実さ，人としての品格や品性等，社会的常識が欠落していることによる悲惨な事件や投書が数多く見受けられます。

例えば，親が幼児を虐待したり，30 歳になる長男が両親を含め家族 5 人を刺し，二人が死亡するという大変痛ましい事件が起きたり，電車の中で学生が化粧をしたり大声で会話したり，携帯電話で話をしたりして，周りの人たちの迷惑となる行為を平気で行ったり，通学途中に飲み食

いをして空き缶や紙くずを道路や田畑などに平然とポイ捨てしたり、さらには、ペットの犬の散歩中のふんの処理を行わないと、こういう現象が多数見受けられます。やはり社会生活をしていく上で人間として大事なことは、人を思いやる優しい心や誠実さ、きちんとした礼儀作法、マナー、人としての品格、品性を身につけることであると思います。

現在の社会は、テストさえできればよいとする人間を育てる風潮にあり、親も教師も成績だけに目を奪われ、人間として大切な品格や品性の形成、社会性、マナー、これらのいわゆる徳育教育が軽視されている傾向にあるのではないのでしょうか。当市におけるこれら徳育教育につきまして、鋭意取り組んでおられるところであると思いますが、現在の徳育教育の現状についてお伺いをいたします。

次に、3点目、老人クラブの現状についてお伺いをいたします。

高齢化社会を迎え、お年寄りの人口の増加やひとり暮らしの方が増加する時代にあって、高齢者が地域で健康で安全で安心して、身体的にも精神的にも生き生きと元気でいつまでも幸せに暮らせることが望まれるところがございます。そのための施策が大変重要でございます。このことは、活力あるまちづくりや医療費の縮減にとっても大変重要な施策でもあります。高齢者の方が生き生きと元気に暮らすためには、生きがいを持つことと健康づくり、そしてコミュニケーション、すなわち友達や家族、あるいは地域とのきずなを構築し深めることが大切ではないでしょうか。

この対応施策の事業の1つとして、60歳以上の高齢者がその知識と経験を生かして、生きがいと健康づくりのためにニュースポーツや教養活動等の多様な社会活動を行い、豊かな老後の暮らしと明るい長寿社会を作っていくことを目的として、地域で組織する老人クラブがその事業を推進しておられます。しかしながらここ数年、全国的にも老人クラブの組織数、会員数とも減少が続いており、厚生労働省によりますと1997年、すなわち平成9年に13万9,000クラブ、会員数886万人あったものが、2008年(平成20年)には11万9,000クラブ、会員数738万人に減少しております。すなわちクラブ数で1万5,000クラブ、これは11%、会員数で148万人、16%減の状況にあります。地域の地域においても各町内ごとにクラブが編制され、5クラブございましたが、2年前に1クラブが、今年度新たに1クラブが解散してしまい、現在3クラブのみとなってしまいました。すなわち組織の弱体化による老人クラブの活動衰退が大変懸念されます。老人クラブは行政としての補助金を出しており、市民の集いや社会奉仕、健康増進活動など、豊かな老後の暮らしと明るい長寿社会を作っていくことを目的としており、その役割は非常に重要であることから、その活性化を図ることは必須事項ではないでしょうか。

老人クラブの1つ目の質問といたしまして、当市における老人クラブの現状、すなわちクラブ数、会員数の動向と運営状況、課題等についてお伺いをいたします。2つ目の質問といたしまして、加入促進や活性化を図るための施策についての計画、あるいは考え方についてお伺いをいたします。

以上で1回目の質問を終わらせていただきます。

議長(黒沢義久君) 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 菊池拓夫君登壇〕

建設部長（菊池拓夫君） 橋の老朽化現状と対策についてのご質問で、長寿命化修繕補強計画の推進状況についてお答えいたします。

まず本市の橋梁の現状でございます。橋梁として管理している延長2メートル以上の橋梁は、永久橋及び木橋と合わせて約800橋でございます。このうち橋梁長寿命化修繕計画の対象となります延長15メートル以上の橋梁は125橋であります。平成21年度までに点検調査をすべて完了し、今後行います長寿命化修繕計画の策定を平成23年度から国の補助制度を活用いたしまして取り組むこととしてございます。本市におきましては橋梁数が多く、また老朽化している橋梁も多く見受けられることから、この長寿命化修繕計画策定事業の制度を積極的に活用し、できるだけ早く橋梁の安全対策に取り組んでまいりたいと考えております。同じく修繕計画の対象外となっている延長15メートル未満の橋梁につきましても、日常生活に欠かせない橋梁が多く架設されていることから、同様に点検調査を行い安全の確保に努めてまいります。

また、橋梁の修繕対応はということでございますが、橋梁の安全確保のため、昨年度は里美地区の外ノ内橋の耐震補強を図り、本年度は水府地区の牛込橋について耐震補強の工事を行い、安全確保を図ってまいります。

次に、県管理の橋梁についてでございます。県所管の橋梁のうち延長15メートル以上の橋梁は、常陸太田工事事務所管内で57橋あり、平成19年度から20年度にかけまして橋梁長寿命化修繕計画に向けた点検調査をすべて完了していると伺っております。

議長（黒沢義久君） 教育長。

〔教育長 中原一博君登壇〕

教育長（中原一博君） 品格・品性形成、社会性、マナー等徳育教育の現状についてお答えいたします。

本市の学校教育においては、第5次総合計画の中の「未来を拓く人づくり」に基づき、豊かな心の育成、健やかな体の育成、魅力ある学校づくりを推進することを目指しております。特に本市では品格、品性を形成すること、モラルなどを身につけることなど豊かな心をはぐくむことを基盤とした学校教育を推進しております。

具体的な取り組みといたしましては、まず、道德教育の充実でございます。道德教育は週1時間の道德の授業だけでなく、国語科を初めとする教科の指導を初め、清掃や異学年交流、花作りの活動など学校生活全体を通じて行っております。また、本市におきましては平成18年度から3年間、人権教育総合推進地域として全学校が取り組み、人権スローガンを作成し、現在も引き続き人権集会を初め、思いやりや助け合いを軸にした活動を進めております。

さらに、あいさつや返事をしっかり行うなど生活の基本や礼儀、マナーを身につけるための活動なども、児童会や生徒会を中心に保護者も巻き込んで積極的に行っているところでございます。小中学校では靴箱に靴をきちんとそろえて入れることや、中学校では自転車のヘルメットを荷台にきちんと縛りつけて駐輪することなど物を大切に扱う態度も育成しております。特に中学校の部活動では、「礼に始まり礼に終わる」を基本として、礼儀を重視した指導を行い、グラウンドや

体育館に感謝する心を形にする意味から草取りや清掃などもしっかり行っております。

このように本市の学校では、あいさつやマナー、きまりなどをしっかり身につけられるよう心の教育を重視し、学校教育全体を通じて取り組んでおります。

議長（黒沢義久君） 保健福祉部長。

〔保健福祉部長 安田隆君登壇〕

保健福祉部長（安田隆君） 老人クラブの現状についてのご質問にお答えをいたします。

現状といたしましては、文化活動やスポーツを通した生きがいづくりや健康づくり、また、道路、公園、公民館周辺の清掃などの奉仕活動、さらにはひとり暮らし高齢者への訪問活動など、さまざまな活動を行っております。現在のクラブ数ですが99クラブ、会員数は4,605人で、平成18年度と比較いたしますと、解散したクラブが8クラブ、新規に設立したクラブが4クラブとなっており、4クラブ減り、会員数が672人減っている現状にあります。

課題といたしましては、価値観の多様化や高齢者の就業機会の増加などにより、新規加入者が少なく会員が減少してきていること、さらには役員の担い手が少ないことなどにより、運営が困難になってきている老人クラブも出てきている現状などが挙げられます。

次に、加入促進や活性化を図るための施策についてでございますが、他自治体の先進事例を学ぶことにより、運営方法などの見直しを行うとともに、老人クラブの広報紙等への充実を図り、未加入世帯の配布を行うなど、会員の確保に向けた活動について老人クラブ連合会等と連携を図りながら検討を進めてまいりたいと思っております。

また、老人クラブの役員の担い手となる団塊の世代の会員が加入できるよう、年齢差、体力差、価値観に配慮した多様で魅力のある活動内容を取り入れることで、老人クラブの活性化につながるものと考えておりますので、これらにつきましても今後、老人クラブ連合会等と協議をしてまいりたいと思っております。

議長（黒沢義久君） 3番鈴木二郎君。

〔3番 鈴木二郎君登壇〕

3番（鈴木二郎君） ただいまご答弁ありがとうございます。2回目の質問をさせていただきます。

まず、1点目の橋の老朽化の現状と対策における橋の長寿命化修繕補強進捗状況につきまして理解をいたしました。鋭意対応していただいておりますことに対し感謝を申し上げます。

2回目の質問を1点させていただきます。ただいまの答弁の中に、平成21年度に行われました市内における市道及び農道を含めた点検調査結果及び損傷状況、補修、補強有無等の内容についてお伺いをいたします。また、要望事項といたしまして、現在、老朽化による損傷が著しく、速やかに補修、補強等の対策が必要な先ほど申し上げました永代橋などの県道につきましては、命にもかかわる問題でもあり、県の修繕計画の方針を早急に提出、対応されるよう、強く強く要望いただくようお願いをいたします。

次に、2点目の徳育教育の現状につきましては、いろいろと幅広く対応されておられ、理解をいたしました。しかしながら教育というものは、常に継続して地道に行っていくことが肝要であ

り、より一層充実、進化を図る必要があるものと考えことから1点再質問いたします。

徳育教育というものは、貧しかった昔のほうがみんな思いやりがあり、マナーや礼儀作法がしっかりしていたように感じられます。お互いに助け合っていくことの大切さを子どもたちは学校だけでなく、家庭や地域社会で身をもって学んでいたからだろうと考えられます。たとえ勉強ができなくても誠実、正直であれば社会的にそれ相応の評価を受けていたのではないのでしょうか。反面、どんなに勉強ができて、悪い行動をしたり平気でうそをつく人間はだめなやつだと評価されていたように感じられます。各家庭でもそのような教育がなされていたのではないのでしょうか。

品格や品性、モラル、思いやりの心等の徳のある人間を育てるには、社会の公平、公正な評価も必要であると思います。そのためには環境づくりが大変大切であると考えられます。徳育教育をより一層充実させ効果あるものとするためには、家庭や地域の協力、連携が非常に重要であり、家庭の親や地域の人たちが互いに信じ合う心や誠実さを持って生きる大切さ、これらを身をもって示し実践するとともに、人と人とのきずなを深め、人間関係を学ぶことが求められているのではないのでしょうか。

学校と地域の連携事例として東京のある小学校では、毎月1回金曜日に学区内のお年寄りとの交流給食を行う「ふれあいフライデー」と称し交流を深めたり、ひとり暮らしの高齢者の朝のごみ出しをごみ出しボランティアとして、あるいは地域ボランティア活動や地域の公共施設や商店に子どもたちの絵や作品を展示し、地域の人々に見ていただくことを行っているとのことであります。さらに老人ホームへの慰問活動なども行い、さまざまな体験と地域の人々とのふれあいを深めていると聞いております。地域の高齢者はごみ出しボランティアでは大変助かり、子どもと話す楽しみにもなり、子どもたちにも人と人とのきずなを深め、人間関係を学ぶことができ、徳育教育のよい機会でもあるとのことであります。この事例のように、学校と地域、あるいは家庭との協力、連携によって、より一層の徳育教育の充実に向けての取り組みが重要と思われませんが、これらに関する計画、あるいはまた考え方についてお伺いを申し上げます。

3点目の老人クラブの現状につきましては、高齢者が増加する状況にあって、クラブ数、会員数とも減少化にあることは憂慮すべきであり、加入促進に向けての運営方法と見直しを検討されておられるとのことですが、1点お伺いをいたします。

活性化に当たっての課題として役員のなり手がないと、すなわち役員をなかなか引き受けてもらえないとのことですが、この問題は非常に難しい課題でもありますけれども、その改善策について何か考えておられるのかお伺いをいたします。

以上、要望及び3件の再質問を申し上げ、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 菊池拓夫君登壇〕

建設部長（菊池拓夫君） 橋の老朽化現状と対策についての再質問にお答えいたします。

延長15メートル以上の橋梁125橋の点検結果でございます。健全な橋は25橋、経過観察

11橋，部分補修すればよくなる橋は29橋，補修のための調査設計を必要とする橋は51橋，詳細調査が急がれる橋は9橋となっております。今後はこの点検調査結果をもとに，橋梁長寿命化修繕計画の作成に取り組んでまいります。

議長（黒沢義久君） 教育長。

〔教育長 中原一博君登壇〕

教育長（中原一博君） 再度のご質問にお答えいたします。

心の教育を充実するためには，学校教育だけでなく家庭や地域社会の果たす役割は極めて重要でございます。さまざまな教育活動において，学校，家庭，地域社会が相互に連携して取り組むことが大切でございます。そのため各学校では，児童生徒や地域の実態に応じて地域と連携したさまざまな体験活動が展開されているところであります。

例えば，地域ぐるみで行うあいさつ運動や3世代交流行事，地域施設での福祉体験，市内各種イベントへのボランティア参加，地区運動会，地域伝統文化の体験などの取り組みがございます。地域の多くの大人たちとのかかわりの中で，児童生徒にとっては社会的マナーや常識を身につけたり社会貢献の心が培われたりする機会となっております。

市内のある小学校では，社会福祉協議会と連携して，地域の高齢者への食事サービスボランティアを長年行っております。高齢者宅への食事を届け，児童もそこで一緒に食事をするという高齢者との交流を通じて他者への思いやりの気持ちをはぐくんでいく取り組みで，高齢者からも大変喜ばれております。

今後とも，学校教育活動全体を通してはもちろんのこと，家庭や地域における児童生徒の健全育成を目的とした関係諸機関や団体とも連携を図りながら，心の教育の充実に一層取り組んでまいりたいと考えております。

議長（黒沢義久君） 保健福祉部長。

〔保健福祉部長 安田隆君登壇〕

保健福祉部長（安田隆君） 老人クラブの現状について，2回目のご質問にお答えいたします。

老人クラブの役員の担い手につきましては，議員発言のとおり，なかなか難しい問題であると認識しております。担い手が少ない理由といたしまして，老人クラブの各種の事務量が増えていることなどさまざまな負担があるということが考えられます。このことから対象となる若い世代の会員を取り込むことや，役員の役割分担による軽減負担を図ることなど改善策が考えられますが，今後，組織の活性化策とともに老人クラブ連合会等と協議をしてまいりたいと思います。